

# 和解の秘跡

## 1. 洗礼後の私たちの現実

- 📖 「正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています。」 1 コリ 6:9-11
- 📖 「ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。」 2 コリ 4:7
- 📖 「自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にはありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであり、神の言葉はわたしたちの内にはありません。」 1 ヨハ 1:8-10
- 📖 「だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」 エフェ 4:22-24

404 アダムがどのようにしてすべての子孫の罪となったのでしょうか。人類全体はアダムのうちに、「ただひとりの人間の一つのからだのように」存在しているのです。この「人類はただ一つ」であることにより、すべての人間は、キリストの義に結ばれているのと同じように、アダムの罪に巻き込まれています。とはいえ、原罪が子孫に伝わっていくということは、わたしたちには十分に理解できない神秘です。しかし、わたしたちは、アダムが原初の聖性と義を自分一人のためだけではなく、すべての人間のために受けたことを、啓示によって知っています。誘惑者に負けたアダムとエバは個人としての罪を犯しましたが、この罪は人間本性を傷つけ、その本性が墮罪の状態で子孫に伝わります。この罪は生殖によってすべての人間に伝えられますが、それは、原初の義と聖性を失った人間の本性が伝達されるということになります。このため、原罪は類比的な意味で「罪」と呼ばれているのです。それは「うつされた」罪であって犯した罪ではなく、状態であって行為ではありません。

405 原罪は、一人ひとりのものであるにもかかわらず、アダムの子孫であるだれにとっても、その人が犯した過ちではありません。原罪は原初の義と聖性の欠如です。しかし、原罪によって人間本性が全面的に腐敗したわけではありません。人間本性の本来の固有な能力は傷つき、無知と苦と死に支配されるままになり、罪への傾き（この傾きが「欲望」と呼ばれます）を持つようになりました。洗礼は、キリストの恵みのいのちを与えて原罪をぬぐい去り、人間を神に向けさせます。しかし、人間の本性を弱め、悪への傾きを持たせた原罪の影響は人間のうちに依然として存在し、霊的戦いを促します。（カトリック教会のカテキズム）

- 洗礼によって神の子どもとなり、神の命にあずかるようになった人にも、「古い人」（古い生活への執着、悪への傾き）が完全に死なない限り、罪を犯す可能性（危険性）があります。

## 2. 罪とは何か？

- ◆ 「いつくしみ深い父と放蕩息子のたとえ」（ルカ 15,11-32）
  - ◇ 罪とは神から離れること、神との交わりを断つことなのです。
  - ◇ 罪とは、神に逆らうこと、神以外のものに頼ったり、幸福の源として認めたりすることです。
  - ◇ 罪を犯すことによって人は、自分に害を与え、自分の滅びを招くのです。
- ◆ 罪は、キリストの体である教会との交わりをも損ないます。
  - 📖 「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」 1 コリ 12:26
- ◆ 神は、（人間らしく生き、成長して、人生の目標に達すると同時に完全な幸福を受け入れるために）人間が歩むべき道を掟によって示してくださいました。
  - 📖 「神への愛はその掟を守ることにある。」（1 ヨハ 5、3）

## 神の十戒 (出エジプト記20・2-17)

- 第一、 わたしはあなたの主なる神である、わたしのほか、誰をも神としてはいけない。
- 第二、 あなたは、神のみ名をみだりによんではいけない。
- 第三、 あなたは、安息日を聖としなさい。
- 第四、 あなたは、父母をうやまいなさい。
- 第五、 あなたは、殺してはいけない。
- 第六、 あなたは、姦淫してはいけない。
- 第七、 あなたは、盗んではいけない。
- 第八、 あなたは、偽証してはいけない。
- 第九、 あなたは、ひとの妻を望んではいけない。
- 第十、 あなたは、人の持ち物をみだりに望んではいけない。

☞ 「イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」 ヨハ 14:23

### 3. 罪の結果として生じる苦しみ (罪の罰)

☞ 「ちょうどそのとき、何人かの人が来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」 ルカ 13:1-5

☞ 「イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。」 ヨハ 8:34-36

- ◆ イエスは、神の慈しみ深い愛について教えました。決して、罪の恐ろしさを軽んじることがありませんでした。罪を犯し続けることは、自分の滅びに向かって歩むことであると教えていました。

1472 教会のこの教えと実践とを理解するには、罪が二つの結果をもたらすことを理解する必要があります。大罪はわたしたちの神との交わりを断ち、その結果永遠のいのちを受けることを不可能にします。この状態は、罪の結果として生じる「永遠の苦しみ (罰)」と呼ばれます。他方、小罪も含めたすべての罪は被造物へのよこしまな愛着を起こさせます。人はこの愛着から、この世であるいは死後、清められなければなりません。死後の清めの状態は煉獄と呼ばれます。この清めによって、人は罪の結果として生じる「有限の苦しみ (罰)」といわれるものから解放されます。この二種類の苦しみ (罰) は、外部から神によって行われる一種の復讐ではなく、罪の本性そのものから生じるものと考えべきです。熱心な愛に基づく回心は罪びとの全面的清めをもたらすことができ、その結果いかなる苦しみ (罰) も存続しなくなります。「カトリック教会のカテキズム」

- ◆ 大罪とは、はっきりと意識して、自由 (意図的) に重大なことに於いて神に逆らうことによって、洗礼において神と結んだ契約を破ることで、愛を破壊することです。(1854-1858)
- ◆ 「小罪を犯すことは、小さなことがらについて、道徳律によって定められた尺度を守らないとき、あるいは、重大なことがらについて、十分な認識または完全な同意なしに道徳律に従わないときです。」(1862) 「小罪は、愛に背き、愛を傷つけますが、愛を破壊するものではありません。」(1855)
- ☞ 「罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。」 ロマ 5:20
- ☞ 「イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」 ルカ 5:31-32

### 4. イエスが罪をゆるす

☞ 「イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考へた。この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」 マコ 2:5-7

☞ 「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」 マコ 2:10

- 回心の過程を描くザアカイの回心 (ルカ 19:1-10)

☞ 「イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」 ルカ 19:9-10

## 5. イエスの弟子たちが罪をゆるす権能を与えられる

☞ 「イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」ヨハ 20:21-23

☞ 「これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」2コリ 5:18

- ◆ 神だけが、罪をゆるすことができますが、イエスは罪をゆるす権能を使徒たち（教会）に与え、ご自分の名で、それを行使させられるのです。

## 6. 和解の秘跡

- 回心の秘跡（マコ 1,15；ルカ 15,18）、悔い改めの秘跡、告解の秘跡、ゆるしの秘跡、和解の秘跡
- 和解秘跡の構成：① 悔い改め、② 罪の告白、③ 赦免、④ 償い
- 和解の秘跡を受ける（告白を聞き、ゆるしを与えることのできるのは、司教、あるいは、司祭である。）

### 1. 準備

- まず、前回のゆるしの秘跡以来の生活を反省し、告白する罪を決める。必ず告白しなければならないのは、大罪とも言われる大きな罪である。例えば、他人の生命、体、名誉を著しく傷つけたこと、神を冒瀆したこと、信仰を捨てたことや自分の責任で教会の掟を守らなかったこと、または姦通、姦淫、人工避妊や妊娠中絶などである。その他の罪については、すべてを網羅する必要はない。
- 次に、**悔い改め**、犯した罪を悲しみ、忌みきらい、二度としないことを決心することである。ゆるしの秘跡は、受ける人に、悔い改めがなければ成立しない一番大切なものである。
- このような準備を経て、告白の場に臨む。

### 2. あいさつ

司祭 「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン。」

- 信者もそれに合わせて、十字を切ります。

司祭 「神のいつくしみに信頼して、あなたの罪を告白してください。」

### 3. 罪の告白（信者）

- 司祭の理解を助けるために必要ならば、自分の身分や、この前の告白などを告げる。
- 告白をする。
- 告白の終りに次のように言う。

「今日までのおもな罪を告白しました。ゆるしをお願いします。」

### 4. 勧めの言葉（司祭）

### 5. 償いの指定（司祭）

### 6. 悔い改めの祈り（信者）

- 例えば、

「神よ、いつくしみ深くわたしをかえりみ、豊かな憐みによってわたしのとがをゆるしてください。  
悪に染まったわたしを洗い、罪深いわたしを清めてください。」

### 7. 罪のゆるし

司祭 「全能の神、あわれみ深い父は御子キリストの死と復活によって世をご自分に立ち帰らせ、罪のゆるしのために聖霊を注がれました。神が教会の奉仕の務めを通してあなたにゆるしと平和を与えてくださいますに。わたしは、✠ 父と子と聖霊のみ名によって、あなたの罪をゆるします。」

信者 「アーメン。」

### 8. あいさつ

司祭 「罪をゆるしてくださった神に感謝をささげましょう。喜びと平和のうちにお帰りください。」

信者 「ありがとうございました。」

## 9. 退席してから

- 時間があれば、その場で静かに神さまのゆるしを味わい、感謝します。
- 償いとして指定されたことはできるだけ早く実行します。

1473 「罪のゆるしと神との交わりの回復は、罪の結果である永遠の苦しみを取り除きます。ただし、有限の苦しみは残ります。キリスト者は、あらゆる種類の苦しみと試練に耐え、死の日が訪れたときには平静に死を迎えて、罪の結果である有限の苦しみを恵みとして受け入れるように努めなければなりません。また、愛の実践、慈悲のわざ、さまざまな償いの実行によって、「古い人」をまったく脱ぎ捨て、「新しい人」を着るように励むべきです。「カトリック教会のカテキズム」

- ゆるしの秘跡は、どうしても必要な場合にはすぐに受けるものであるが、そうでなくても、降誕祭前の待降節と復活祭前の四旬節には受け、その他にも、月に1度とか、2、3ヵ月に1度とか、定期的に受け、秘跡の恵みを受けることが望ましい。

## 10. 神と教会との和解

「ゆるしの秘跡を受ける時、信者は『神に背いた罪をあわれみ深い神からゆるされ、同時に、罪を犯して傷つけた教会、しかも愛と模範と祈りをもって罪びとの回心のために努力している教会と和解する。・・・人間は皆、超自然的きずなで互いに結ばれているため、一人の聖性は他の人々により影響を及ぼし、同様に一人の罪は他の人々を傷つけるのである。』このため回心は、罪によって傷つけてしまった兄弟たちとの和解を常に伴う。しかも人は不正を働くとき、他の人と組んで行うことが少なくない。同様に回心する場合にも、人は互いに助け合うことによってキリストの恵みをとおして罪から解放され、すべての善意の人とともに正義と平和を世にもたらすように努めるのである。」（「カトリック儀式書 ゆるしの秘跡」11-12 頁）

### 11. 神のゆるしを受け入れる結果

📖 「そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったため、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返します』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」 マタ 18:21-35

📖 「その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」 マタ 5:24

📖 「わたしたちの負い目を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように。わたしたちを誘惑に遭わせず、／悪い者から救ってください。』もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」 マタ 6:12-14

- ◆ 人が神のゆるしを受け入れて、神と和解したことは、他人、特に自分に対して悪を行った人に対するこの人の態度によって現れます。
- ◆ 自分がゆるされたように他人をゆるしていないならば、神のゆるしを完全に受け入れず、神と和解していないということが分かります。